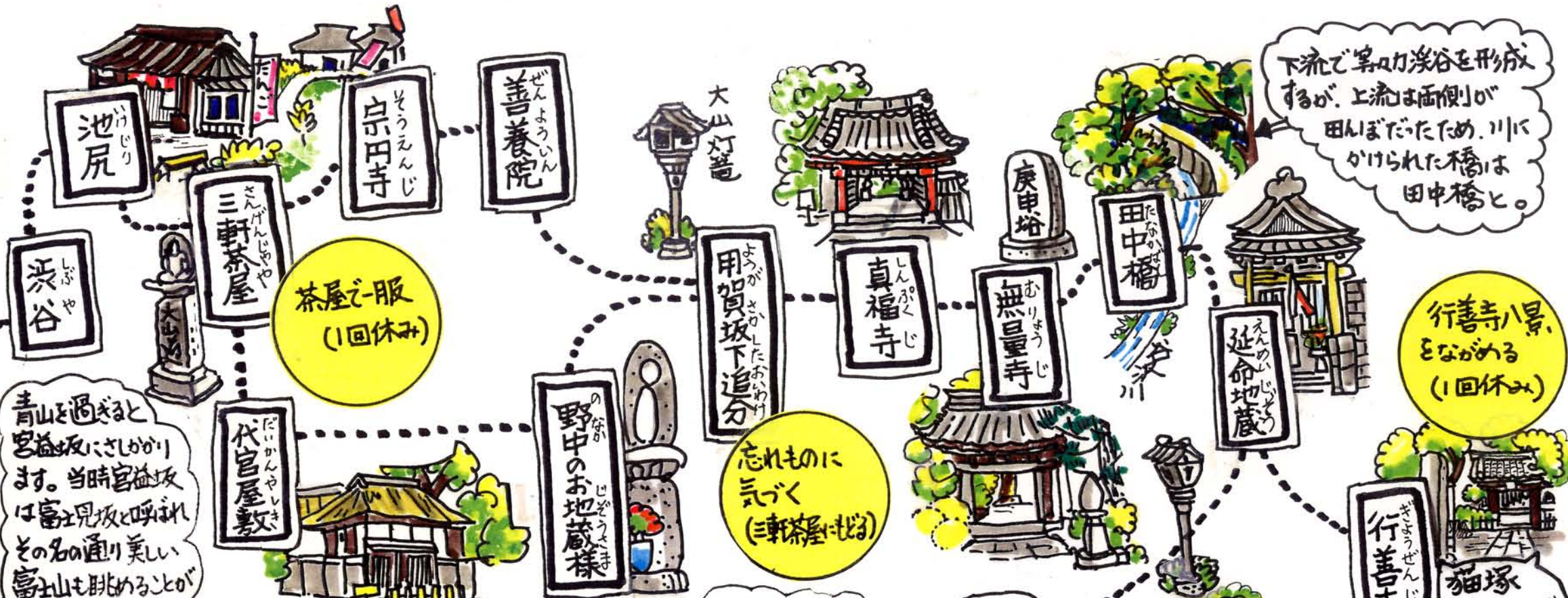


大山みち歩き



大山詣りは信仰とともに観光という意味合いもあり、特に江戸や関東の庶民に大変人気がありました。赤坂御門を出发点に。



青山と過ぎると宮益坂にさしかかります。当時宮益坂は富士見坂と呼ばれその名の通り美しい富士山も眺めることが出来ました。

茶屋で一服 (1回休み)

忘れものに気づく (三軒茶屋にちなみ)

下流で第1の渓谷を形成するが、上流は両側100m田んぼのため、川にかけられた橋は田中橋と。

行善寺八景をながめる (1回休み)

大山街道の要所 要所には大山火籠が建ち道標が白装束の遠来の客を歓迎した。今でも当時の大山街道を偲ぶものとして、道標を見る事が出来ます。

雨に相模川も増水 (1回休み)

別名雨乞いの滝と云われ、雨乞いの儀式ではこの滝の水が使われる。

東海道は大名や武士が多く利用していたため、商人は大山道を利用し、タバコ、鮎、生糸、炭など相模地方の物産を江戸に送る道でもあり、沿道には人馬継ぎ立場として伊勢原、厚木、国分、下鶴間、長津田、荏田、溝口、二子などがありました。江戸中期、庶民は講を作つて富士山の富士講、御獄山の御獄講、大山阿夫利神社の大山講など信仰と物見遊山の旅が盛んになりました。

宿坊に泊まる豆腐料理を食べる (1回休み)

二子溝口宿に一泊する (1回休み)

豪雨のため川を渡る (2回休み)



雨乞いのお詣りにその前に精進落とし、更に遊んでその後山頂で祈橋と祈りご神木を受け取り帰宅とほぐりに帰りました

発行日 2008.11.1
 絵 サロン兼福 育藤昌子
 発行元 玉川総合支庁 大山みちおこしPT
 問い合わせ 玉川総合支庁地域振興課 03-3702-1603

どうも、旅人は暑い盛りには豆腐を手にのせて歩きながら食べ喉を潤はした。